

茶の生産量、購入量とも全国上位

八十八夜が過ぎ新茶が出回る季節だ。

三重は茶の主産地で、県民は緑茶好きである。農林水産省によると、三重県の茶の栽培面積と荒茶生産量は静岡県と鹿児島県に次いで全国3位（2024年）である。特に、新芽に日光を遮る覆いをかぶせて栽培するかぶせ茶の生産量は全国の約6割を占め日本一を誇る。

恵まれた地形、気温や降水量などの気候条件が茶の栽培に適している。産地としての歴史は古く、江戸時代に伊勢国の茶は伊勢商人や近江商人を通じて全国に流通した。

現在、鈴鹿市、四日市市、亀山市などの鈴鹿山脈の麓では煎茶とかぶせ茶、松阪市（旧飯南町、飯高町）、大台町、度会町では煎茶と深蒸し煎茶などが生産されている。三重県産100%の緑茶を「伊勢茶」と称しブランド展開している。

県内には緑茶好きも多いようだ。世帯における緑茶の購入量（総務省）を23～25年の平均でみると、県庁所在地別で津市は静岡市、京都市に次ぐ3位、購入頻度でも宮崎市、長崎市に次ぐ3位と上位にある。

ただ、宇治茶や静岡茶など他産地の銘柄茶の原料として出荷されることが多いため市場単価が低く、自治体や関係団体、生産者等はPR活動や市場機能、輸出の強化など流通・消費段階でのブランド化や販路拡大に取り組んでいる。意識して伊勢茶を選び消費拡大に貢献したい。

（地域共創事業部 主任研究員 谷ノ上千賀子）

お茶に関する全国データ

	栽培面積	荒茶生産量	購入頻度	購入量	
	2024年	24年	23～25 年平均	23～25 年平均	※購入頻度、購入量は 1世帯（2人以上）あたり
1位	静岡県	鹿児島県	宮崎市	静岡市	
2位	鹿児島県	静岡県	長崎市	京都市	
3位	三重県	三重県	津市	津市	
4位	京都府	京都府	佐賀市	福岡市	
5位	福岡県	宮崎県	大津市	宮崎市	

※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2026年5月7日